
会話

土堀 友

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

会話

【Nコード】

N7698R

【作者名】

土堀 友

【あらすじ】

入門コース最終回のテーマは「大切にしているもの」、日常生活の何でもない一コマを書いてみました。

「お父さんに似てきたんじゃない」

新聞を切り抜いてスクラップブックを作っていると、妻が覗きこむようにしていた。

父は政治、経済、社会面の新聞記事を切り抜いて、スクラップブックを作っていた。それは晩年における父の唯一の趣味であり、几帳面な父の人生でもあった。

「トモ、この記事知っているかい？ 関連記事を並べてあるので読み易いぞ」

「いや、すごいね。こんな具合に編集されていたらいいよね」

スクラップブックを開いては、得意そうに父がいう。私は大袈裟に作品を褒めあげ、ご機嫌を取った。父は益々得意顔になったのである。父が亡くなってから、物置に積んであったスクラップブックを思い切って処分したが、思い出の品として残しておくべきだったかと、後悔している。

私は新聞に掲載されている小説を切り取って、スクラップブックを作っている。この小説を読んで、文章の基本や構成、主題を学習しようと考えている。安価ではあるが、手作り教科書として大切な物である。

「それで押し入れをいっぱいにしないでね。ウチは狭いのよ」

確かにわが家は狭い。寝室を見回すと、妻がバーゲンで買い込んだTシャツとか、安物の衣料品がうずたかく積まれている。

「おい、着なくなった物、処分したらどうだ」

「エー、ダメヨ。これは全部大切な物。もったいなくて捨てることなんて出来ないわ」

なるほど、そのとおりである。

他人から見れば価値の無いものであっても、本人にしてみれば大切なものである。逆から見れば、本人が居なくなってしまうば、何

の価値も無い。

「おい、おれのスクラップブック、死んだら処分していいぞ。遠慮しないでいいから」

妻は振り向きもせず、テレビを見ながらいった。

「それって、二十年早くない？」

「ウーン、そうだね」

妻との何気ない会話。私はそのような日常を大切にしたい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7698r/>

会話

2011年4月13日09時23分発行